



シッペール先生追悼

土屋昌明

2021年2月18日、シッペール先生がお亡くなりになったという連絡を、フランスのゴーサール（Vincent Goossaert）さんから受け取った。突然のことであいへん驚き悲しむとともに、コロナで中断している日仏の研究交流を回復できなかったのが残念だ。少しまえに北京の友人たちと一緒に飲んだときの姿を思い出した。

シッペール先生の学問については師事した方々に任せ、私は先生との洞天研究の縁について書いておこう。北京で飲んだときの姿というのは、2018年10月24日に北京の清華大学でおこなわれた洞天福地の世界文化遺産申請に関する会議のあとのことだ。歓迎の宴が開かれて、シッペール先生は右手に白酒の盃を持ちながら、洞天福地の研究と保護を清華大学が推進することについて中国語で祝辞を述べられ、乾杯した。中国語がみごとだけでなく、友人とともに洞天を記念する幸福さが感じられ、こんな境地に至った一個の人生に感動させられた。先生のご高齢に遠慮しながら酒を注いだ中国の友人が、その盃をうまそうに飲み干す先生の姿を見て驚き喜んだ様子も妙におもしろかった。

そのまえにご一緒に飲んだのは、2017年にパリで第2回日仏中国宗教者会議を終えた翌日だった。会議の終わりに私の手もとに紙切れが回ってきて、それに la coupole と日時とサインがあった。ラクーポールというのはモンパルナスの老舗だ。袁冰凌夫人とシッペール先生が、三浦國雄先生・田中文雄先生（福井文雅先生とともにパリでの日仏コロックに参加した経験をお持ち）、森瑞枝と私を招き、カキなどの海鮮で白ワインをふるまってくださった。場所といい、味といい、日本から来た私たちには極上のもてなしだった。「Fukui」のこと、日本の友人のこと、洞天のことで話に花が咲いた。先生はしこたま飲んだ足で地下鉄に乗り、パリ北駅から特急でオランダのアムステルダムまで帰るというので驚かされた。

シッペール先生から洞天の話を初めて聞いたのは、2014年3月12、13日に東京の専修大学でおこなった第1回日仏中国宗教者会議の基調講演だった。話の枕は、パンダが今でも生存しているのは天師道のおかげだ、という論で、パワポにパンダが映った。初めは冗談かと思ったが、歴代の道教信仰で洞天のある山岳が聖地視されて自然環境が保持された点に洞天思想の環境史的重要性があるという指摘だったのだ。

そんなわけで、私がシッペール先生の警咳に触れたのは、7年のあいだに数回だけだったが（ほかに2015年にフランスの Aussois での先生の80歳記念

会議)、実は、そのまえ 1996 年ころ到北京で会ったことがある。私が中国人民大学で教えていたある日、勁松橋古玩城の骨董屋をうろうろしていたら、お店のなかから漢代の陶器について議論する声が聞こえてきて、そのレベルが高いので驚いた。おもしろそうだなと思って入って見ると、店主と中国語で議論していたのが外国人だったので、また驚いた。それで名刺をもらったら、Kristofer Schipper と書いてあったので、さらに驚いた。先生は、次の日に天寧寺に行くから一緒に行くか、というので、二つ返事で自分の電話番号を紙切れにメモして渡した。翌日、待っていたが電話はかかってこなかった。

それから 16 年後、2013 年の秋のある日、私が授業をしていると、携帯電話に電話が入り、見ると国際電話の番号だった。授業終了後すぐに電話を返すと、なんとシッパール先生だった。先生は始めから中国語を使って話され、電話の趣旨は、日本の研究者が洞天に関心を持って、フランスの研究者と共同研究してくれることに感謝する、日仏の会議では「Fukui」をはじめとする、かつての日仏コロックの先生方に会えるようにしてほしい、とのことだった。話の終わりに、「会ったことのないあなたにこのようなお願いをするのは恐縮だ」と言われたので、実は 96 年ころ到北京の骨董屋でお会いしたことがあります、先生は天寧寺に行くので電話をくださるという話だったが、ただけなくて残念でした、と話した。すると先生は驚いたらしく「おお」という声を漏らし、「あのときの若い人があなただったか！ いただいた紙切れはどこかに行ってしまった、あのあと天寧寺は見学させてもらえなかったのです」と答えた。

そもそも私が洞天研究で科研を申請したのも、シッパール先生の学恩である。というのは、2000 年にシカゴで行われた道教美術の展覧会の啓発によるから。展示に洞天テーマがとりあげられていたわけではないが、全体的に「山岳」が通底するテーマだと感じられた。そして、Stephen Little ら編の『Taoism and the arts of China』に掲載されたシッパール先生の解説論文を読んで、道教が持つ山岳信仰としての特徴を重視すべきだと気づかされたのである。

シッパール先生との縁で始めた洞天研究では、毎年 1 冊ずつ『洞天福地研究』と題する報告書を出しており、いつもアムステルダムに郵送している。第 4 号（2013 年）には、先生の「第一洞天：閩東寧徳霍童山初考」を中国語から翻訳して載せた。今年で記念すべき第 10 号が出るが、シッパール先生はそれを待たずに仙去されてしまった。



清華大学にて 2018 年 10 月